

龍藏院寺報創刊号

この度、龍の年の正月に記念すべき龍藏院寺報の第一号を創刊することとなりました。

当龍藏院は、土屋誠檀頭様の多額の浄財ご寄進と熱誠檀信徒各位のご協力により、立派な本堂が建立されました。そして私が住職就任の記念事業として、護摩堂を建立し、その他客殿・研修室「休憩所・緊急避難所兼用」等を建設しました。続いて、境内東側の土地約六百八十坪を買収し境内地として認可を受け、

参詣来山者用の大駐車場が完成しました。墓地の環境整備等も順次実施しています。

尚各家先祖の菩提寺に対し、過去において一時の感情から異教徒となり、墓所に、仏教寺院にふさわしくない墓石等而建て、檀家皆様に違和感をいだかせた事態がありました。良識のある後継者の判断により寺側の指示通り異教徒的墓石も無くなりました。

以上の経緯により、今日龍藏院は山容整備も進み当地域随一の寺として評価される次第となりました。これもひとえに兼務寺院も含め檀家各位のご協力の賜と存じ、改めて御礼申し上げます。次第でございます。

へご挨拶へ 住職 大津頼宥

龍藏院寺報

創刊
発行所
匝瑳市野手1824
龍藏院

檀頭	土屋 誠
総代	石橋 勲
総代	山崎 三郎
総代	土屋 正
総代	林 照夫
世話人	大久保 俊夫
林	幸雄
作佐部	明義
熱田	康雄
大久保	忠良
中村	克己
島田	久四郎
越川	昇
伊藤	為吉
伊藤	静
佐久間	孝雄
大久保	庸雄
土屋	清一
穴澤	諒
熱田	清三
嶋田	一夫
田村	彦一

龍藏院末寺・縁故寺院	・西小笹地区 妙福寺
住職 龍藏院住職兼任	・東小笹地区 慈眼寺
住職 龍藏院住職兼任	・東小笹地区 阿弥陀院
住職 龍藏院住職兼任	・登戸 吉祥院
住職 龍藏院副住職	・大浦堀之内 蓮花寺
住職 大津永聖	(龍藏院副住職)

一、観音菩薩像



一切の衆生を救ってくださる現世利益の仏様

二、韋駄天立像



商売繁盛・金運向上
足腰健全・小児魔よけ

（主な行事）

- ◆ 一月五日 新年初祈願護摩法要
- ◆ 一月十六日 初墓参り（寺への年賀）
- ◆ 二月十五日 お釈迦様涅槃絵（しゃかさまねはんえ）
- ◆ 八月十二日 盆総供養
 - 新盆精霊特別法要
 - 無縁精霊施餓鬼会
 - 檀家先祖代々各霊
 - 戦没英霊
 - 戦災殉難者等
- ◆ 八月十三日 墓参（寺への盆供）
- ◆ 春秋彼岸
- ◆ 毎月一回ご詠歌研修発心会（入会者歓迎）
- ◆ 会社・役所等の社員職員の研修会申込次第随時行います。

龍のこぼれ言＝創刊の言＝

人は皆その身体の中に、龍を蔵しているといわれています。それは生命のエネルギのようなもので、上手に飼いなすことができれば生きる活力にすることができ、飲み込まれれば欲望に支配されるといわれています。今年龍藏院になり深い龍年であります。未曾有の被害があった昨年の震災から立ち直る活力を、一人ひとりに宿る龍から引き出していきたいものです。

さて、仏教は煩惱(欲望)に立ち向かう智慧の教えでもありません。そしてこれからの私たち日本人が生きていくために必要なものは、世界の他の国々と友好関係を築いていく智慧であります。現在の日本は、技術は韓国や台湾に追いつかれ、経済力は中国に抜かれるという、新たな厳しい時代に突入しました。そんな状況の中で私たちが経済発展を続け、子孫に平和をもたらす鍵は、東アジアに共通する精神文化としての仏教を通じた国際協力にあると言えるでしょう。戦争の原動力になった神道は、今後アジア各国で間違いなく強い批判にさらされることとなります。

龍藏院は檀家の方々の安全のためにも、神道家の改宗を速やかに完了致しました。これからお子さんやお孫さんが、仕事の関係で中国・韓国の人々に質問された時には、安心して真言宗の仏教徒と言って下さい。弘法大師空海上人は中国でも尊敬される有名な人物です。また必要があるときには、代々仏教徒であることの証明書も発行いたしますので、ご相談ください。



京都総本山智積院特別行事に就職出仕



教王護国寺（東寺）
大玄関
先頭龍藏院住職

龍藏院大津住職

寺田新善長

大本山成田山貫首

真言宗智山派管長・総本山智積院第七十世寺田信秀^{げいか}殿下の就任式が、昨年十一月に行われ住職は総本山の集議席（上席二十名の僧侶）の一員として参列しました。この式典には仏教界各宗派の代表者も多数参列されました。上の写真は、宗内役職・各種委員・新管長関係者の記念写真です。

十二月には総本山で行われた冬報恩講に住職は出仕しました。報恩講とは、智山派の派祖興教大師の入滅された十二月十二日を中心にして、「出仕論議・陀羅尼会（夕方から翌朝まで続く法要）・及び御法事の三種類の法要のことです。これは興教大師への報恩謝徳の意味で行う主要な年中行事です。住職は最後の「御法事」での「経頭」という配役を勤めました。

尚毎年正月に行われる京都の教王護国寺（東寺）での後七日御修法の定額僧を拝命していますので、この法会にも出仕しています。

副住職 大津永聖 総本山より僧正に任命される

副住職、大津永聖は本山智積院より任命（昨年十一月末）され、僧正位（紫衣）に就くことになりました。

真言宗智山派では十五の僧階があり、大僧正のみ緋色（赤）、僧正一般は紫色、僧都は緑色、律師が黄色となっております。この度、現在の規程の中では最年少で、僧正を受けることができましたのも、檀家の皆様の支えがあつてのことと感謝しております。今後は、僧正の紫衣に恥じぬよう、一層の精進をしていきたいと思っておりますので、宜しくお願い申し上げます。



すでに四年に渡り、敬愛大学八日市場高等学校（八日市場敬愛）の英語科講師として勤務しておりますので、日頃はあまりお会いする機会がありませんが、本年も宜しくお願ひ申し上げます。

今泉地区閻魔堂墓地整備完成式

〜ご先祖のご供養〜



昨年十二月二十三日に閻魔堂墓地完成式が行われ、住職・副住職が法要を行いました。

記念すべき大工事を完成された建設委員及び墓所関係者の皆様の先祖を思う気持ちは、閻魔堂墓地の歴史に永遠に刻まれることになるでしょう。



青年僧による助け合い東日本プロジェクト

〜宮城ボランティア〜

匝瑳市と横芝光町の一部の真言宗智山派寺院の若手僧侶からなり、龍藏院副住職が会長を務めている下総匝瑳教区青年会は今回の東日本大震災に際し、仏教精神の根本に立ち被災地の復興支援ボランティアを積極的に行っております。土砂の撤去や清掃の他、被災地で地域の復興にかかわる寺院と協力して、行政機関の目の届きにくい人々へのきめの細かい物資の送付等を行っています。

三月の旭市に続き七月下旬には、宮城県石巻市に行き扇風機等の物資援助、日和山及び被災者墓所での読経、被災地清掃活動等を行ってきました。また十一月十八日実施の福島県いわき市ふれあい広場のバザーには、衣類等を送らせていただきました。今後とも、多くの皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。



石巻市内の様子

